

(3) ヒメテングノメシガイの仲間 (テングノメシガイ科ヒメテングノメシガイ属)

観察日：平成25年7月7日

場 所：長崎県民の森・水車小屋周辺

水車小屋上にあるトイレまで上っていく遊歩道を歩いていると、コケが生えている湿った地上から小さい黒いものがたくさん出ているのに気づいた。テングノメシガイだと思い、写真を撮った。しかし、調べていくと、最終的には検鏡しないと同定できないことを知り、あらためて同定の難しさを知った。子実体と柄の表面に剛毛がなく、子実体に粘性がある（枯れ葉がくっついていて）ようなので、ヒメテングノメシガイ属のナナフシテングノハナヤスリあるいはテングノハナヤスリの気がする。詳しくは、子嚢胞子の隔壁を調べないとわからない。



◎テングノメシガイ属 (子実層と柄の表面に剛毛がある。)

- ・テングノシャモジタケ (黒色、柄と頭部が明瞭、子嚢胞子の隔壁は5、側糸は糸状)
- ・ナナフシテングノメシガイ (黒色、子嚢胞子の隔壁は7)
- ・テングノメシガイ (黒色、子嚢胞子の隔壁が15、側糸は糸状)
- ・コテングノメシガイ (黒色、頭部が丸い)
- ・カバイロテングノメシガイ (黄褐色～こげ茶色で乾くと黒くなる。隔壁は7～12)

◎ヒメテングノメシガイ属 (子実層と柄の表面に剛毛はない。)

- ・ヒメテングノメシガイ (黒色、子嚢胞子の隔壁は7、側糸は糸状)
- ・タマテングノメシガイ (黒色、子嚢胞子の隔壁は0～7、側糸は数珠状)
- ・ナナフシテングノハナヤスリ (子実体に粘性あり、子嚢胞子の隔壁は7、側糸は糸状)
- ・テングノハナヤスリ (子実体に粘性あり、子嚢胞子の隔壁が15)

(4) トガリワカクサタケ (ヌメリガサ科アカヤマタケ属)

観察日：平成25年10月20日

場 所：長崎県民の森

この日、長崎県民の森管理事務所との共催で「野生きのこ観察会」が開かれ、一般の方も多く参加され、ハタケシメジ、シャカシメジなど多くのきのこを観察した。NBCテレビの取材も加わり、大変にぎわった。その中で採集されたきのこです。当初、名前が分からなかったが、兵庫きのこ研究会からトガリワカクサタケの老菌だと教えていただいた。若い時は名のとおりオリーブ緑色をしているが、乾けば黄色になる。このように、同じきのこでも、生長段階、乾燥具合などで見た目が変わるので、同定には継続的な観察が重要であることを痛感した。

